感染症発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況
― 2021 年 ―

宜保輝　鈴木理央　小菅隆裕*　尾上恵子　尾関由姫恵

Infectious disease surveillance reports in Saitama Pref. in 2021

Hikaru Gibo, Rio Suzuki, Takahiro Kosuge, Keiko Onoue, Yukie Ozeki

はじめに

感染症発生動向調査事業は「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」の第 12 条から 16 条に基づく全国サーベイランスである．この事業は一類から五類感染症，新感染症及び新型インフルエンザ等感染症の患者を診断した医師からの届出を受け，感染症の地域的な流行の実態を早期かつ的確に把握し，その情報を速やかに還元するものである．当所では 2004 年から「感染症発生動向調査実施要綱」に基づく基幹感染症情報センターとして，埼玉県における感染症の発生についての情報収集，解析及び提供を行っている．

2021 年の発生動向調査では，新型コロナウイルス感染症については，「新型コロナウイルス感染症を指定感染症として定める等の政令（令和 2 年政令第 11 号）」により指定感染症に指定されていたが，「感染症法」の一部改正により，2021 年 2 月 13 日から「新型インフルエンザ等感染症」に追加された．また，新型コロナウイルス感染症以外では，感染症法第 12 条第 1 項及び第 14 条第 2 項に基づく届出の基準の別紙「医師及び指定届出機関の管理者が都道府県知事に届け出る基準」の一部改正が行われた．この改正によりマラリア，アメーバ赤痢及び百日咳の届出基準の項目に新たな検査方法が追加（2021 年 6 月 3 日施行）され，急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く.）の発生届に新たな記載項目が追加（2021 年 9 月 30 日施行）された．

今回は 2021 年の発生動向調査情報に基づく埼玉県の患者発生状況について報告する．

対象及び方法

感染症法に基づく対象疾患の届出概要を表 1 に示す[1]．埼玉県基幹情報センターとしてさいたま市，川越市，越谷市及び川口市を含む全県域から収集した届出を対象とした．新型コロナウイルス感染症を除く疾患の届出数の集計には，従来と同じく感染症サーベイランスシステム（National Epidemiological Surveillance of Infectious Disease: NESID）の感染症発生動向調査システムに登録された 2022 年 3 月時点の確定数をダウンロードして用い，新型コロナウイルス感染症は埼玉県新型コロナウイルス感染症対策本部で収集した情報を 2022 年 4 月時点での暫定値として用いた．なお，全数把握対象疾患は診断日が 2021 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日に属する届出を，定点把握対象疾患のうち，週単位報告対象疾患は 2021 年第 1 週（2021 年 1 月 4 日～2021 年 1 月 10 日）から 52 週（2021 年 12 月 27 日～2022 年 1 月 2 日）まで，月単位報告対象疾患は，2021 年 1 月から 12 月までの報告を対象とした．定点当たり報告数は，定点における患者数を各週もしくは各月における定点数で除した値とした．定点当たり報告患者総数は，累積報告患者数を平均定点数で除した値とした．なお，平均定点数は，インフルエンザ定点数・小児科定点数・眼科定点数は小数点以下を切り捨て，性感染症定点数・基幹定点数は小数点第 2 位以下を切り捨てた．年齢別の集計は，全数把握対象疾患では 10 歳ごとの階級に分け，定点把握対象疾患では感染症発生動向調査事業の報告書式の年齢階級を適用した．

結果

1　全数把握対象疾患の発生状況

一類から三類感染症の届出数を表 2-1 に，四類感染症を表 2-2 に，五類全数把握対象疾患を表 2-3 に，新型インフルエンザ等感染症を表 2-4 にそれぞれ示した．

(1) 一類から三類感染症

一類感染症は疑似症を含め届出はなかった．

二類感染症の結核は男 470 例，女 363 例の計 833 例の届出があり，前年の 891 例と比べ減少した．類型別では，患者が 590 例（感染症死亡者の死体 1 例を含む），無症状病原体保有者（潜在性結核感染症）が 243 例であった．前年と比べると患者は 51 例減少し，無症状病原体保有者は 4 例減少した．患者では 60 歳以上が 66.4%を占め，男女ともに 70 歳代及び 80 歳代が多かった．性比は男が女の 1.3 倍であった．無症状病原体保有者では，男は 70 歳代，女は 50 歳代が最も多かった．

三類感染症は，腸管出血性大腸菌感染症 136 例，腸チフス 2 例の計 138 例の届出があった．

* 現　草加保健所

表 1 感染症法における対象疾患の届出概要

2021年12月31日現在

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
一類	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a
二類	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	(全数)	直ちに	a
三類	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
四類	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	エキノコックス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	キャサヌル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ジカウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ダニ媒介脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ボツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	野兎病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a
	ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a

*疑似症　明らかに当該感染症の症状を有しているが，病原体診断の結果が未定の者を指す．但し，鳥インフルエンザはH5亜型，H7亜型ウイルスが検出された患者
**内容　a：　氏名，年齢，性別，職業，住所，所在地，病名，症状,診断方法，初診・診断・推定感染年月日，感染原因,感染経路,感染地域，診断した医師の住所及び氏名，その他,(保護者の住所氏名)

表 1 感染症法における対象疾患の届出概要（続き）

2021年12月31日現在

感染症類型	疾患名	届出の可否			届出方法		
		患者	疑似症*	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容**
五類	アメーバ赤痢	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く)	○	×	×	内科 小児科	次の月曜	c1
	インフルエンザ(入院)	○	×	×	基幹	次の月曜	c1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1
	急性弛緩性麻痺	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く)	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	（全数）	7日以内	b2
	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	ジアルジア症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	（全数）	直ちに	a
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	水痘(入院例)	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1
	先天性風しん症候群	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	梅毒	○	×	○	（全数）	7日以内	b1
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	破傷風	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	百日咳	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	風しん	○	×	×	（全数）	直ちに	a
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	麻しん	○	×	×	（全数）	直ちに	a
	無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	（全数）	7日以内	b1
	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2
	流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1
	流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1
	淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）	○	○	○	（全数）	直ちに	a

*疑似症　明らかに当該感染症の症状を有しているが，病原体診断の結果が未定の者を指す

**内容　a:　氏名，年齢，性別，職業，住所，所在地，病名，症状，診断方法，初診・診断・推定感染年月日，感染原因，感染経路，感染地域，診断した医師の住所及び氏名，その他,(保護者の住所氏名)

b1:　年齢，性別，病名，症状,診断方法，初診・診断・推定感染年月日，感染原因，感染経路，感染地域，診断した医師の住所及び氏名

b2:　年齢，性別，病名，症状,診断方法，初診・診断・推定感染年月日，感染原因，感染経路，感染地域，診断した医師の住所及び氏名,最近数年間の主な居住地，国籍

c1:　年齢，性別

c2:　年齢，性別，原因病原体の名称，検査方法

1）腸管出血性大腸菌感染症

男 62 例，女 74 例の計 136 例の届出があった．前年の 95 例より増加した．症例の年齢は 1 歳から 90 歳代に分布した．年齢階級別では，20 歳代，10 歳未満，30 歳代の順に多かった．類型別では，患者 82 例，無症状病原体保有者 54 例で，患者が全体の 60.3%を占め，前年の 73.7%と比べ減少した．O 血清型は，026 が 61 例と最も多く，次いで多かったのは 0157 が 41 例で，0157 と 026 の全体に占める割合はそれぞれ 30.1%と 44.9%であった．また，0157 の届出数は過去 5 年で最も少なかった．年齢階級別では，0157 の検出が最も多かったのは 20 歳代，026 の検出が最も多かったのは 10 歳未満であった．その他の血清型は 0156 が 8 例，0103，0111 が各 4 例，05 が 3 例，0177 が 2 例，021，054，0145，0166，0170，0183 が各 1 例，091 及び 0115 の同時検出が 1 例，その他に型別不能（OUT）が 4 例，O 血清型不明が 2 例であった．例年の流行期である 6 月～9 月の届出数は 58 例で，過去 5 年の中で最も少なかった．

患者 82 例の症状は，水様性下痢 66 例，腹痛が 50 例，血便 40 例，発熱 16 例，嘔吐 7 例，急性腎不全 1 例で，溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症者は認められなかった．

2）腸チフス

11 月に男 40 歳代 1 例，12 月に男 10 歳未満 1 例の計 2 例の届出があり，前年の 1 例を上回った．共に，類型は患者で，診断方法は血液からの分離・同定による病原体の検出であった．推定感染地域は前者がインド，後者がバングラデシュであった．

表 2-1　一類、二類、三類感染症の届出数

	疾　患　名	埼玉県 2021年	2020年	2019年
一類	エボラ出血熱	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0
	痘そう	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0
	ペスト	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0
	結核	833	891	1,243
	ジフテリア	0	0	0
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0
	中東呼吸器症候群	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0
	細菌性赤痢	0	6	6
	腸管出血性大腸菌感染症	136	95	152
	腸チフス	2	1	1
	パラチフス	0	0	4

(2) 四類感染症

四類感染症は，E 型肝炎 36 例，A 型肝炎 2 例，つつが虫病 3 例，マラリア 2 例，レジオネラ症 99 例，レプトスピラ症 1 例の計 143 例の届出があった．

1）E 型肝炎

男 26 例，女 10 例の計 36 例の届出があり，前年の 28 例より増加した．症例の年齢は 20 歳代から 80 歳代に分布し，50 歳代，40 歳代，60 歳代の順に多かった．類型は患者が 29 例，無症状病原体保有者が 7 例で，診断方法は PCR 法による病原体遺伝子の検出及び血清 IgA 抗体の検出が 6 例，PCR 法による病原体遺伝子の検出のみが 8 例，血清 IgA 抗体の検出のみが 21 例，血清 IgM 抗体の検出のみが 1 例であった．推定感染経路は経口感染 16 例，不明 20 例で，推定感染地域は国内 28 例，不明 8 例であった．届出は年間を通して確認され，無症状病原体保有者の内 6 例は献血により探知された症例であった．

表 2-2　四類感染症の届出数

疾　患　名	埼玉県 2021年	2020年	2019年
E型肝炎	36	28	21
ウエストナイル熱	0	0	0
A型肝炎	2	4	14
エキノコックス症	0	0	0
黄熱	0	0	0
オウム病	0	1	0
オムスク出血熱	0	0	0
回帰熱	0	0	0
キャサヌル森林病	0	0	0
Q熱	0	0	0
狂犬病	0	0	0
コクシジオイデス症	0	0	0
サル痘	0	0	0
ジカウイルス感染症	0	1	0
重症熱性血小板減少症候群	0	0	0
腎症候性出血熱	0	0	0
西部ウマ脳炎	0	0	0
ダニ媒介脳炎	0	0	0
炭疽	0	0	0
チクングニア熱	0	0	3
つつが虫病	3	2	1
デング熱	0	2	16
東部ウマ脳炎	0	0	0
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	0	0	0
ニパウイルス感染症	0	0	0
日本紅斑熱	0	0	1
日本脳炎	0	0	0
ハンタウイルス肺症候群	0	0	0
Bウイルス病	0	0	0
鼻疽	0	0	0
ブルセラ症	0	0	0
ベネズエラウマ脳炎	0	0	0
ヘンドラウイルス感染症	0	0	0
発しんチフス	0	0	0
ボツリヌス症	0	0	1
マラリア	2	0	2
野兎病	0	0	0
ライム病	0	0	0
リッサウイルス感染症	0	0	0
リフトバレー熱	0	0	0
類鼻疽	0	0	1
レジオネラ症	99	107	117
レプトスピラ症	1	0	1
ロッキー山紅斑熱	0	0	0

2）A 型肝炎

9 月に男 70 歳代 1 例，10 月に女 60 歳代 1 例の計 2 例の届出があり，前年の 4 例を下回った．共に類型は患者で，診断方法は血清 IgM 抗体の検出であった．推定感染経路は，共に不明で，推定感染地域は前者が国内，後者

が不明であった．また，ワクチン接種歴は，共に不明であった．

3）つつが虫病

男2例，女1例の計3例の届出があり，前年の2例を上回った．症例の年齢は70歳代及び80歳代で，診断方法は全て間接蛍光抗体法又は間接免疫ペルオキシダーゼ法による血清 IgM 抗体の検出であった．推定感染地域は国内が2例（県内1例，県外1例），不明が1例であった．

4）マラリア

前年発生が無かったマラリアは，11月に男50歳代1例，12月に女30歳代1例の計2例の届出があった．共に，病型は熱帯熱で，診断方法は，血液検体の鏡検による病原体の検出であった．推定感染地域は前者がナイジェリア，後者がコートジボワールであった．

5）レジオネラ症

男84例，女15例の計99例の届出があり，前年の107例より減少した．症例の年齢は10歳代から90歳代に分布し，60歳以上が全体の76.8%を占めた．類型は全て患者で，患者の病型別では肺炎型96例，ポンティアック熱型3例であった．

年間を通して届出はあったが，月別の届出数は7月の21例，10月の14例，11月の11例，6月及び9月の各10例の順に多かった．

診断方法は，酵素抗体法またはイムノクロマト法による尿中抗原の検出が98例，LAMP法による病原遺伝子の検出が7例，分離・同定による病原体の検出が3例，蛍光抗体法による病原体抗原の検出が1例であった（重複例有り）．推定感染地域は，国内83例，不明16例で，国内感染例のうち県内は64例であった．

6）レプトスピラ症

前年発生のなかったレプトスピラ症は，12月に男60歳代1例の届出があった．推定感染経路はネズミによる咬傷で，推定感染地域は国内（県内）であった．

(3) 五類感染症

五類感染症は，アメーバ赤痢19例，ウイルス性肝炎（E型・A型を除く）10例，カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症95例，急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く）1例，急性脳炎20例，クロイツフェルト・ヤコブ病4例，劇症型溶血性レンサ球菌感染症30例，後天性免疫不全症候群28例，ジアルジア症4例，侵襲性インフルエンザ菌感染症6例，侵襲性肺炎球菌感染症57例，水痘（入院例）15例，梅毒287例，播種性クリプトコックス症10例，破傷風3例，百日咳49例，風しん1例，麻しん1例の計640例の届出があった．

1）アメーバ赤痢

男18例，女1例の計19例の届出があり，前年の31例より大きく減少した．症例の年齢は40歳代から70歳代に分布し，60歳代の7例が最も多かった．病型は，全て腸管アメーバ症であった．診断方法は，鏡検による病原体の検出が18例で，PCR法による病原体遺伝子の検出が1例であった．推定感染経路は経口感染が1例，性的接触が5例，不明13例で，性的接触の内訳は異性間性的接触及び同性間性的接触が各2例，異性同性不明が1例であった．推定感染地域は，国内8例，国外2例，不明9例であった．

2）ウイルス性肝炎（E型・A型を除く）

B型肝炎5例，C型肝炎1例，その他のウイルス性肝炎4例の計10例の届出があり，前年の6例を上回った．

B型肝炎は10歳代から30歳代の男5例の届出があった．いずれも，診断方法は血清IgM抗体（HBc抗体）の検出であった．ウイルスの遺伝子型はA型が2例，B型が1例，C型が1例であった．推定感染経路は全て性的接触で，性的接触の内訳は異性間性的接触が3例，同性間性的接触が1例，異性同性不明が1例であった．また，推定感染地域はいずれも国内であった．

C型肝炎は12月に男40歳代1例の届出があった．診断方法はHCV抗体陰性，かつHCV RNA又はHCVコア抗原の検出であった．推定感染経路は針等の鋭利なものの刺入であり，推定感染地域は国内であった．

その他のウイルス性肝炎は，エプスタイン・バール・ウイルス（EBV）とサイトメガロウイルス（CMV）による肝炎が3月に女20歳代1例，EBNによる肝炎が4月に女20歳代，8月に女50歳代，9月に女10歳代の各1例の計4例の届出があった．推定感染経路は性的接触及び不明が各2例で，推定感染地域はいずれも国内であった．

3）カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

男63例，女32例の計95例の届出があり，前年の81例より増加した．症例の年齢は0歳から90歳代まで幅広く分布したが，60歳以上が72例で全体の75.8%を占めた．症状は菌血症・敗血症が28例，尿路感染症が26例，肺炎が22例，胆嚢炎・胆管炎が20例，腸炎・腹膜炎が6例（重複例有り）であった．検査検体で多かったのは，血液の26検体，尿の24検体，喀痰の20検体であった（重複例有り）．

分離された菌は多い順に*Klebsiella aerogenes*が37株，*Enterobacter cloacae*が26株，*K. pneumoniae*が9株，*Escherichia coli*が5株，*E. bugandensis*が4株，*Citrobacter freundii*及び*K. oxytoca*が各3株，*Providencia stuartii*及び*Serratia marcescens*が各2株，*C. braakii*，*E. asburiae*，*S. liquefaciens*が各1株で，この他に*Klebsiella* sp.が1株報告された．

4）急性弛緩性麻痺

10月に男5-9歳1例の届出があり，前年の2例を下回った．病原体は不明で，ポリオワクチン接種歴は有りであった．推定感染経路は飛沫・飛沫核感染で，推定感染地域は国内であった．

5）急性脳炎

男5例，女15例の計20例の届出があり，前年の23例を下回った．症例の年齢は0歳から80歳代に分布し，

階級別では 1-4 歳の 10 例が最も多かった.

病原体が特定された症例は，10 月及び 12 月の 2 例（ヘルペスウイルス），1 月の 1 例（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌），7 月の 1 例（パレコウイルス）で，残りの 16 例の病原体は特定されなかった．推定感染地域は，国内が 18 例（県内 16 例），不明 2 例であった.

6）クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）

男 1 例，女 3 例の計 4 例の届出があり，前年の 2 例を上回った．症例の年齢は 60 歳代 1 例，70 歳代 2 例，80 歳代 1 例で，病型は古典型 CJD3 例，家族性 CJD1 例で，診断の確実度は,ほぼ確実が 3 例,疑いが 1 例であった.

7）劇症型溶血性レンサ球菌感染症

男 17 例，女 13 例の計 30 例の届出があり，前年と同数であった．症例の年齢は 30 歳代から 90 歳代に分布し，60 歳以上が 22 例で全体の 73.3%を占めた．届出は 7 月及び 8 月を除く各月にあり，1 月及び 12 月の 5 例が最も多かった.診断方法は全症例が分離同定による病原体の検出で，血清群は A 群が 11 例，G 群が 16 例，B 群が 2 例，不明が 1 例であった．推定される感染経路は創傷感染が 14 例，その他が 3 例，不明が 13 例で，推定感染地域は国内が 27 例(全て県内),不明が 3 例であった.

8）後天性免疫不全症候群

男 27 例，女 1 例の計 28 例の届出があり，前年の 29 例を下回った．男の症例は 20 歳代から 70 歳代に分布し，20 歳代から 40 歳代が 23 例で，男全体の 85.2%を占めた．病型は AIDS が 11 例で，その指標疾患はニューモシスティス肺炎が 6 例，サイトメガロウイルス感染症（生後 1 カ月以後で，肺，脾，リンパ節以外）が 2 例，カンジダ症（食道，気管，気管支，肺），クリプトコッカス症（肺以外），HIV 脳症（認知症又は亜急性脳炎），HIV 消耗性症候群（全身衰弱又はスリム病），進行性多巣性白質脳症及び非ホジキンリンパ腫（LSG 分類により①大細胞型，免疫芽球型 ②Burkitt 型）が各 1 例であった（重複例有り）．また，その他（指標疾患を認めない患者)が 1 例,無症状病原体保有者が 15 例であった．推定される感染経路では性的接触が 22 例，不明が 5 例で，性的接触の内訳は同性間性的接触が 17 例，異性間性的接触が 3 例，異性・同性間性的接触及び異性・同性不明性的接触が各 1 例であった．女の症例は，30 歳代であった．病型は AIDS で，その指標疾患は活動性結核（肺結核又は肺外結核）であった．推定感染経路は異性間性的接触であった.

また，病型別の年齢分布では，AIDS は 30 歳代から 70 歳代に分布し，30 歳代から 40 歳代が 10 例で AIDS 患者全体の 83.3%を占めた．無症状病原体保有者は 20 歳代から 50 歳代に分布し，20 歳代から 30 歳代が 10 例で無症状病原体保有者全体の 66.7%を占めた.

9）ジアルジア症

前年発生のなかったジアルジア症は，男 4 例の届け出があった．症例の年齢は 30 歳代から 70 歳代に分布した．いずれも，診断方法は鏡検による病原体の検出であった．推定感染経路は同性間性的接触及び経口感染が各 1 例，不明が 2 例で，推定感染地域は国内が 2 例，国外が 1 例，不明が 1 例であった.

10）侵襲性インフルエンザ菌感染症

男 4 例，女 2 例の計 6 例の届出があり，前年の 12 例より減少した．症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し，1-4 歳で 3 例，0 歳で 1 例，40 歳代以上で 2 例の報告があった.診断方法は,全て分離・同定による病原体の検出で，検体は血液が 5 例，髄液が 1 例であった．ヒブワクチン接種歴は，0 歳及び 1-4 歳の 4 例は有りで，40 歳代以上では無し及び不明が各 1 例であった．推定感染経路は飛沫・飛沫核感染が 2 例，不明が 2 例で，残りの 2 例は胆管炎からの波及，口腔内の外傷が疑われていた．推定感染地域は国内 5 例（県内 4 例），不明が 1 例であった.

11）侵襲性肺炎球菌感染症

男 41 例，女 16 例の計 57 例の届出があり，前年の 63 例を下回った.症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布し，60 歳以上が 34 例で全体の 59.6%を占めた．20 歳未満では 1-4 歳が 9 例，0 歳が 3 例，5-9 歳が 1 例の報告があった．診断方法は，分離同定による病原体の検出のみが 53 例，分離同定による病原体の検出及びイムノクロマト法による病原体抗原の検出が 3 例，分離同定による病原体の検出及び PCR 法による病原体遺伝子の検出が 1 例であった．症状は菌血症が 51 例（89.5%），発熱が 49 例（86.0%），肺炎が 21 例（36.8%）に認められた．ワクチン接種歴は，20 歳未満はいずれも有りで，20 歳以上では，有りが 60 歳以上の 5 例，無しが 7 例，不明が 32 例であった．推定感染地域は国内が 53 例（県内 45 例），不明が 4 例であった.

12）水痘（入院例）

男 8 例，女 7 例の計 15 例の届出があり，前年の 13 例を上回った.症例の年齢は 0 歳から 90 歳代に分布した．病型別では検査診断例が 9 例，臨床診断例が 6 例で，検査診断例の診断方法は，イムノクロマト法による抗原の検出及び蛍光抗体法による抗原の検出が各 3 例，分離・同定による病原体の検出が 2 例，血清 IgM 抗体の検出及び検体から直接の PCR 法による病原体遺伝子の検出が各 1 例であった（重複例有り）．ワクチン接種歴は無しが 2 例，不明が 13 例であった．感染経路は，家族等からの感染，入院中の院内感染及び不明が各 5 例で，推定感染地域は国内が 13 例(県内 10 例)，不明が 2 例であった.

13）梅毒

男 219 例，女 68 例の計 287 例の届出があり，前年の 168 例より増加し，届出数は過去 5 年で最大となった．性比（男/女）は 3.22 で，前年の 2.11 より高くなった.

症例の年齢は,男では 10 歳代から 80 歳代に分布し，40 歳代が最も多く 20 歳代から 40 歳代が 77.6%を占めた．女では 0 歳代から 90 歳代に分布し，20 歳代が最も多く 10 歳代から 40 歳代が 83.8%を占めた．病型は,

男では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が 118 例，早期顕症梅毒（Ⅱ期）が 62 例，晩期顕症梅毒が 4 例，無症状病原体保有者が 35 例で，女では早期顕症梅毒（Ⅰ期）が 11 例，早期顕症梅毒（Ⅱ期）が 27 例，晩期顕症梅毒が 1 例，先天梅毒が 2 例，無症状病原体保有者が 27 例であった．また，先天梅毒は 2 例で，前年の 5 例を下回った．推定感染経路は，男では性行為感染が 185 例，不明が 34 例，女では性行為感染が 49 例，母子感染が 2 例，不明が 17 例であった．性行為感染の内訳では，異性間性的接触が男女共に最も多く，男が 129 例，女が 42 例であった．性風俗産業の直近 6 か月以内の利用歴・従事歴は，利用歴が男の 38.8%，従事歴が女の 10.3%に認められた．HIV 感染症との合併は男 10 例，妊娠は女 5 例に認められた．また，推定感染地域は国内が 219 例，不明が 68 例であった．

14）播種性クリプトコックス症

男 6 例，女 4 例の計 10 例の届出があり，前年の 10 例と同数であった．症例の年齢は 40 歳代から 80 歳代に分布した．診断方法は，分離・同定による病原体の検出が 9 例，ラテックス凝集法によるクリプトコックス莢膜抗原の検出が 2 例，病理組織学的診断が 1 例であった（重複例有り）．感染原因では，ステロイド内服等による免疫不全が 9 例，不明が 1 例であった．推定感染地域は国内が 7 例（県内 6 例），不明 3 例であった．

15）破傷風

男 3 例の届出があり，前年の 5 例を下回った．症例の年齢は 50 歳代から 80 歳代に分布した．いずれも，診断方法は臨床決定，推定感染経路は創傷感染，推定感染地域は国内（全て県内）であった．破傷風含有ワクチンの接種歴は，有り無し及び不明が各 1 例であった．

表　2-3　五類感染症の届出数（全数把握）

疾患名	埼玉県		
	2021年	2020年	2019年
アメーバ赤痢	19	31	36
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	10	6	5
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	95	81	90
急性弛緩性麻痺*	1	2	4
急性脳炎	20	23	59
クリプトスポリジウム症	0	0	0
クロイツフェルト・ヤコブ病	4	2	8
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	30	30	30
後天性免疫不全症候群	28	29	46
ジアルジア症	4	0	0
侵襲性インフルエンザ菌感染症	6	12	17
侵襲性髄膜炎菌感染症	0	2	0
侵襲性肺炎球菌感染症	57	63	137
水痘（入院例）	15	13	17
先天性風しん症候群	0	0	1
梅毒	287	168	205
播種性クリプトコックス症	10	10	9
破傷風	3	5	4
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	1	2
百日咳**	49	106	704
風しん	1	3	198
麻しん	1	0	35
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	1

16）百日咳

男 15 例，女 34 例の計 49 例の届出があり，前年の 106 例より減少した．症例の年齢は 0 歳から 80 歳代に分布し，階級別では 1-4 歳 15 例，20 歳代 9 例，30 歳代 7 例の順に多かった．診断方法は単一血清で抗体価の高値が 33 例，病原体遺伝子の検出が 6 例，イムノクロマト法による病原体抗原の検出及び分離・同定による病原体の検出が各 3 例であった．ワクチン接種歴は有りが 26 例，無しが 1 例，不明が 22 例で，接種歴は有りのうち 4 回接種者は 25 例であった．また，0 歳の症例は接種歴がなかった．推定感染地域は国内が 36 例（県内 33 例），不明が 13 例であった．

17）風しん

4 月に男 5-9 歳 1 例の届出があり，前年の 3 例を下回った．病型は検査診断例で，診断方法は，血清 IgM 抗体の検出であった．ワクチン接種歴は 2 回であった．推定感染経路は不明で，推定感染地域は国内（県内）であった．

18）麻しん

前年発生がなかった麻しんは 7 月に男 20 歳代 1 例の届出があった．病型は修飾麻しん（検査診断例）で，診断方法は，血清 IgM 抗体の検出であった．ワクチン接種歴は 2 回であった．推定感染経路及び推定感染地域は不明であった．

(4) 新型インフルエンザ等感染症

1）新型コロナウイルス感染症

男 56,055 人，女 45,339 人の計 101,396 人（性別不明 2 人を含む．）の届出があり，前年の 14,680 人より大幅に増加した．症例の年齢は 0 歳から 100 歳代に分布した．年齢階級別では，20 歳代，40 歳代，30 歳代，50 歳代の順に多く，20 歳代から 50 歳代が 71,800 人で全体の 70.8%を占めた．性別では，男 56,055 人，女 45,339 人で，男が 55.3%を占めた．類型別では，患者 90,545 人，無症状病原体保有者 9,422 人で，患者が全体の 89.3%を占めた．患者の発生状況は 2020 年 12 月から 2021 年 2 月に第 3 波，4 月から 5 月に第 4 波が観察された．その後，7 月から患者数は急増し，日の発症者数のピークが 1738 人（8 月 17 日）の第 5 波が観察された．

表　2-4　新型インフルエンザ等感染症の届出数（2021年）

疾患名	埼玉県	
	2021年*	2020年
新型コロナウイルス感染症	101,396	14,680

*2022年7月19日集計

(5) 獣医師が届出を行う感染症

獣医師が届出を行うエボラ出血熱（サル），マールブルグ病（サル），ペスト（プレーリードッグ），重症急性呼吸器症候群（イタチアナグマ・タヌキ・ハクビシン），細菌性赤痢（サル），ウエストナイル熱（鳥類），エキノコックス症（犬），結核（サル），鳥インフルエンザ H5N1 又は H7N9（鳥類），中東呼吸器症候群（ヒトコブラクダ）の 10 疾患の届出はなかった．

2　定点把握対象疾患の発生状況

五類感染症定点把握対象疾患の週単位報告の週別報告数，定点当たり報告数を表 3-1 及び 3-2 に，年齢階級別報告数を表 4 に示した．また，月単位報告の月別報告数，定点当たり報告数を表5に,性年齢階級別報告数を表6に示した．

(1) 内科・小児科定点把握対象疾患の動向

1) インフルエンザ

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 35 例であった．定点当たり報告患者総数 0.14 は前年と比べ著しく減少した．定点当たり報告数は前年の第 12 週（3/16～3/22）以降 1.00 を下回り，例年のような冬の流行は 2 シーズン観察されなかった．年齢階級別では，20 歳未満が全体の 65.7%，10 歳未満は全体の 48.6%を占めた．

(2) 小児科定点把握対象疾患の動向

1) RS ウイルス感染症

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 8,833 例であった．定点当たり報告患者総数 55.55 は前年と比べ著しく増加した．定点当たり報告数は例年より早い 5 月から増加し始め，最大値は第 28 週（7/12～18）に 6.49 を観測し，9 月まで多い状態が続いた．定点当たり報告患者総数及び定点当たり報告数の最大値は，感染症法に基づく調査が開始された 2003 年以来，最大であった．年齢階級別では 15-19 歳を除く階級で報告があり，1 歳が最も多く，2 歳，3 歳の順に続き，1 歳～3 歳が全体の 69.3%を占めた．

2) 咽頭結膜熱

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 1,623 例であった．定点当たり報告患者総数 10.21 は前年と同水準であった．夏季流行は例年に比べ小規模で，冬季流行も前年と同様に小規模であった．定点当たり報告数の最大値 0.52 は，第 24 週（6/14～20）に観察された．年齢階級別では全ての階級で報告があり，1 歳が最も多く，1 歳～3 歳が全体の 71.2%を占めた．

3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 3,388 例であった．定点当たり報告患者総数 21.31 は前年と比べ大きく減少した．定点当たり報告数は，前年の 3 月以降例年を下回る水準で推移した．2021 年の定点当たり報告数の最大値は第 17 週（4/26～5/2）の 0.71 であった．年齢階級別では全ての階級で報告があり，2 歳～8 歳で全体の 70.2%を占めた．

4) 感染性胃腸炎

第 1 週～52 週の累積患者報告数は 32,754 例であった．定点当たり報告患者総数 206.00 は前年と比べ増加した．冬季流行は 10 月以降に緩やかに始まり，定点当たり報告数の最大値は第 51 週（12/20～26）の 11.91 であった．冬季以外では，5 月から 7 月にかけて報告数がやや多い状況が続いた．年齢階級別では全ての階級で報告があり，1 歳が最も多かった．

5) 水痘

第 1 週～第 52 週の累積報告患者数は 1,061 例であった．定点当たり報告患者総数 6.67 は前年と比べ減少した．定点当たり報告数は前年の 4 月以降 0.50 を下回る水準で推移した．2021 年の最大値は第 45 週（11/8～14）及び第 48 週（11/29～12/5）の 0.26 であった．年齢階級別では全ての階級で報告があり，10 歳未満では，6 歳，4 歳，7 歳の順に多く，4 歳～9 歳で全体の 60.8%を占めた．

6) 手足口病

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 838 例であった．定点当たり報告患者総数 5.27 は前年と同水準であった．定点当たり報告数の最大値は第 51 週（12/20～26）の 0.43 で，前年に引き続き夏季流行は観察されなかった．年齢階級別では 15-19 歳を除く階級で報告があり，1 歳が最も多く 1 歳及び 2 歳で全体の 66.0%を占めた．

7) 伝染性紅斑

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 141 例であった．定点当たり報告患者総数 0.89 は前年と比べ大きく減少した．定点当たり報告数の最大値は第 16 週（4/19～25）及び第 17 週（4/26～5/2）の 0.05 で，年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった．年齢階級別では 6 ヵ月未満を除く階級で報告があり，1 歳が最も多く，次いで 2 歳と続いた．

8) 突発性発しん

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 3,442 例であった．定点当たり報告患者総数 21.65 は前年と同水準であった．定点たり報告数は 6 月から 9 月までは例年よりやや少ない水準で推移したが，1 月から 5 月，10 月以降は例年同様の動向が観察された．定点当たり報告数の最大値は第 23 週（6/7～6/13）の 0.63 であった．年齢階級別では，例年同様に 1 歳が最も多く，2 歳未満で全体の 81.8%を占めた．

9) ヘルパンギーナ

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 992 例であった．定点当たり報告患者総数 6.24 は前年と比べ増加した．定点当たり報告数の最大値は第 35 週（8/30～9/5）の 0.37 で，夏季に報告数のわずかな増加を観察したが，1.00 を上回ることはなかった．年齢階級別では全ての年齢階級で報告があり，1 歳が最も多く 1 歳～3 歳で全体の 73.6%を占めた．

10) 流行性耳下腺炎

2021 年第 1 週～52 週の累積報告患者数は 544 例であった．定点当たり報告患者総数 3.42 は前年と同水準であった．定点当たり報告数の最大値は，第 30 週（7/26～8/1）の 0.15 で，年間を通して際立った報告数の増加は観察されなかった．年齢階級別では 20 歳以上を除く階級で報告があり，5 歳が最も多く 3 歳～8 歳で全体の 73.5%を占めた．

表 3-1　定点把握対象疾患の推移・患者数（インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告）

年・週	月／日（週開始日）	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	インフルエンザ（入院患者）
21・1	01/04	1	1	37	60	314	23	3	1	71	3	6	−	6	−	1	−	−	−	−
21・2	01/11	3	1	40	56	363	17	1	3	82	2	8	−	8	−	1	−	−	−	−
21・3	01/18	1	−	42	69	403	23	5	2	65	1	10	1	2	−	−	−	−	−	−
21・4	01/25	−	2	46	111	413	18	1	6	86	3	10	−	6	−	−	1	−	−	−
21・5	02/01	3	2	48	109	419	34	2	2	62	2	14	2	5	3	3	−	−	−	−
21・6	02/08	2	−	37	83	331	13	4	5	66	3	12	1	5	−	−	−	−	−	−
21・7	02/15	−	1	20	74	427	19	3	3	63	1	8	−	6	−	1	−	−	−	−
21・8	02/22	3	3	18	77	363	20	2	2	67	1	4	−	5	−	1	−	−	1	−
21・9	03/01	1	3	27	88	421	25	−	5	72	1	7	−	5	−	−	2	−	1	−
21・10	03/08	1	−	18	83	477	21	1	4	73	2	7	−	6	−	−	1	−	−	−
21・11	03/15	1	1	23	90	371	25	1	1	57	3	13	−	4	−	1	1	−	−	−
21・12	03/22	1	4	21	63	352	27	2	2	67	4	11	−	5	1	−	−	−	−	1
21・13	03/29	1	2	12	54	350	19	2	1	62	1	6	−	5	−	−	−	−	−	−
21・14	04/05	1	7	25	53	350	17	4	4	54	1	5	1	9	−	−	−	−	−	−
21・15	04/12	2	3	16	75	382	17	5	3	83	−	11	2	9	1	−	−	−	−	−
21・16	04/19	3	9	23	82	584	10	3	8	95	3	7	1	10	−	2	−	−	−	−
21・17	04/26	−	4	23	106	620	20	4	7	93	1	5	−	8	−	−	−	−	−	−
21・18	05/03	−	11	11	45	374	19	3	2	67	−	7	1	9	1	−	−	−	−	−
21・19	05/10	−	9	37	72	768	26	8	6	97	2	7	−	7	−	−	−	−	1	−
21・20	05/17	1	23	37	65	757	22	9	1	86	6	11	2	9	−	−	−	−	−	−
21・21	05/24	−	41	64	76	767	25	9	2	90	4	17	−	11	−	−	−	−	−	−
21・22	05/31	−	59	51	75	782	26	21	−	93	6	15	−	10	−	−	−	−	−	−
21・23	06/07	−	117	76	77	810	22	20	4	102	5	12	−	11	−	1	−	−	−	−
21・24	06/14	−	191	85	83	722	25	15	3	101	5	12	−	18	1	1	1	−	−	−
21・25	06/21	−	312	54	74	798	12	18	1	79	8	13	−	14	−	1	−	−	−	−
21・26	06/28	−	461	48	81	798	14	14	6	74	10	14	−	7	−	1	−	−	−	−
21・27	07/05	−	694	70	64	741	10	12	3	82	25	18	1	8	−	1	−	−	−	−
21・28	07/12	−	1,058	45	85	755	21	16	2	54	16	18	3	14	−	−	−	−	−	−
21・29	07/19	−	1,000	23	36	484	13	15	4	67	32	15	2	7	−	−	−	−	−	−
21・30	07/26	1	927	25	45	578	14	12	1	67	29	24	2	6	1	1	1	−	−	−
21・31	08/02	−	906	20	55	439	16	11	1	37	39	15	2	13	−	1	−	−	−	−
21・32	08/09	−	607	9	41	252	11	8	1	28	25	14	1	1	−	1	1	−	−	−
21・33	08/16	−	425	18	25	340	8	11	−	39	44	10	−	7	−	−	−	−	−	−
21・34	08/23	−	541	14	32	350	14	26	1	61	51	11	−	6	−	−	1	−	−	−
21・35	08/30	−	423	13	32	398	9	11	3	60	59	7	−	7	−	−	−	−	−	−
21・36	09/06	−	290	10	33	399	13	13	1	49	54	10	2	4	−	−	−	−	−	−
21・37	09/13	−	218	14	38	418	25	17	3	56	54	6	−	7	−	−	−	−	−	−
21・38	09/20	−	141	19	24	358	18	18	6	59	27	10	−	5	−	2	−	−	−	−
21・39	09/27	−	77	15	32	359	23	12	2	49	32	15	−	7	−	1	−	−	−	−
21・40	10/04	−	54	11	46	415	10	7	3	63	29	14	1	15	−	−	1	−	−	−
21・41	10/11	−	36	8	42	488	11	7	−	62	34	18	−	6	−	−	−	−	−	−
21・42	10/18	1	33	16	69	502	15	9	2	65	38	12	−	7	−	2	−	−	−	−
21・43	10/25	2	21	20	84	564	16	19	3	68	30	13	−	8	1	1	−	−	−	−
21・44	11/01	−	18	17	74	573	21	22	2	54	24	8	−	13	−	−	−	−	−	−
21・45	11/08	1	5	28	57	738	42	33	1	79	33	5	1	10	−	−	−	−	−	−
21・46	11/15	−	6	34	95	979	23	63	3	53	25	12	1	3	−	−	−	−	−	−
21・47	11/22	1	15	26	62	1,141	29	56	3	64	41	10	−	4	1	2	−	−	−	−
21・48	11/29	2	10	38	59	1,455	42	64	2	53	38	8	−	8	−	−	−	−	−	−
21・49	12/06	−	13	45	99	1,800	36	60	4	49	40	7	−	6	−	−	−	−	−	−
21・50	12/13	1	27	53	79	1,881	41	62	1	48	50	6	1	10	−	1	−	−	−	−
21・51	12/20	1	14	63	70	1,941	27	70	5	47	38	5	1	9	−	−	−	−	−	−
21・52	12/27	−	7	30	29	890	14	24	−	22	7	1	−	−	1	−	−	−	−	−
2021年	計	35	8,833	1,623	3,388	32,754	1,061	838	141	3,442	992	544	29	391	11	27	10	−	3	1
2020年	計	29,327	559	1,696	9,817	24,885	2,143	786	562	3,685	410	571	39	560	12	22	87	−	1	131
2021年/2020年比		0.0	15.8	1.0	0.3	1.3	0.5	1.1	0.3	0.9	2.4	1.0	0.7	0.7	0.9	1.2	0.1		3.0	0.0

（−:0）

(3) 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 29 例であった．定点当たり報告患者総数 0.74 は前年と比べ減少した．報告は年間を通して断続的に観察され，52 週のうち 20 週で 1 例～3 例の報告があった．定点当たり報告数の最大値は，第 28 週（7/12～18）の 0.07 であった．年齢階級別では，20 歳代，1 歳，50 歳代の順に多かった．

2) 流行性角結膜炎

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 391 例であった．定点当たり報告患者総数 10.03 は前年と比べ減少した．

定点当たり報告数の最大値は第 24 週（6/14～20）の 0.44 で，年間を通して例年を下回る水準で推移した．年齢階級別では，6 か月以上 12 ヵ月未満を除く全ての階級で報告があり，10 歳未満では，4 歳，3 歳，5 歳の順に多く，20 歳以上では，20 歳代が最も多く，年齢が上がるにつれ報告患者数は少なくなった．

表 3-2　定点把握対象疾患の推移・定点当たり報告数（インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点週単位報告）

年・週	月/日（週開始日）	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	インフルエンザ（入院患者）
21・1	01/04	−	0.01	0.24	0.39	2.03	0.15	0.02	0.01	0.46	0.02	0.04	−	0.15	−	0.09	−	−	−	−
21・2	01/11	0.01	0.01	0.25	0.35	2.27	0.11	0.01	0.02	0.51	0.01	0.05	−	0.21	−	0.09	−	−	−	−
21・3	01/18	−	−	0.26	0.43	2.50	0.14	0.03	0.01	0.40	0.01	0.06	0.02	0.05	−	−	−	−	−	−
21・4	01/25	−	0.01	0.29	0.69	2.58	0.11	0.01	0.04	0.54	0.02	0.06	−	0.15	−	−	0.09	−	−	−
21・5	02/01	0.01	0.01	0.30	0.68	2.60	0.21	0.01	0.01	0.39	0.01	0.09	0.05	0.13	0.27	0.27	−	−	−	−
21・6	02/08	0.01	−	0.23	0.52	2.07	0.08	0.03	0.03	0.41	0.02	0.08	0.03	0.13	−	−	−	−	−	−
21・7	02/15	−	0.01	0.13	0.47	2.72	0.12	0.02	0.02	0.40	0.01	0.05	−	0.15	−	0.09	−	−	−	−
21・8	02/22	0.01	0.02	0.11	0.48	2.28	0.13	0.01	0.01	0.42	0.01	0.03	−	0.13	−	0.09	−	−	0.09	−
21・9	03/01	−	0.02	0.17	0.55	2.63	0.16	−	0.03	0.45	0.01	0.04	−	0.12	−	−	0.18	−	0.09	−
21・10	03/08	−	−	0.11	0.52	2.98	0.13	0.01	0.03	0.46	0.01	0.04	−	0.15	−	−	0.09	−	−	−
21・11	03/15	−	0.01	0.14	0.56	2.30	0.16	0.01	0.01	0.35	0.02	0.08	−	0.10	−	0.09	0.09	−	−	−
21・12	03/22	−	0.02	0.13	0.39	2.17	0.17	0.01	0.01	0.41	0.02	0.07	−	0.13	0.09	−	−	−	−	0.09
21・13	03/29	−	0.01	0.07	0.34	2.17	0.12	0.01	0.01	0.39	0.01	0.04	−	0.13	−	−	−	−	−	−
21・14	04/05	−	0.04	0.16	0.33	2.19	0.11	0.03	0.03	0.34	0.01	0.03	0.03	0.23	−	−	−	−	−	−
21・15	04/12	0.01	0.02	0.10	0.46	2.36	0.10	0.03	0.02	0.51	−	0.07	0.05	0.23	0.09	−	−	−	−	−
21・16	04/19	0.01	0.06	0.14	0.51	3.60	0.06	0.02	0.05	0.59	0.02	0.04	0.03	0.25	−	0.18	−	−	−	−
21・17	04/26	−	0.03	0.15	0.71	4.16	0.13	0.03	0.05	0.62	0.01	0.03	−	0.22	−	−	−	−	−	−
21・18	05/03	−	0.07	0.07	0.28	2.35	0.12	0.02	0.01	0.42	−	0.04	0.02	0.22	0.09	−	−	−	−	−
21・19	05/10	−	0.06	0.23	0.45	4.83	0.16	0.05	0.04	0.61	0.01	0.04	−	0.18	−	−	−	−	0.09	−
21・20	05/17	−	0.14	0.23	0.40	4.70	0.14	0.06	0.01	0.53	0.04	0.07	0.05	0.23	−	−	−	−	−	−
21・21	05/24	−	0.26	0.40	0.48	4.79	0.16	0.06	0.01	0.56	0.03	0.11	−	0.27	−	−	−	−	−	−
21・22	05/31	−	0.37	0.32	0.47	4.86	0.16	0.13	−	0.58	0.04	0.09	−	0.24	−	−	−	−	−	−
21・23	06/07	−	0.73	0.47	0.48	5.03	0.14	0.12	0.02	0.63	0.03	0.07	−	0.27	−	0.09	−	−	−	−
21・24	06/14	−	1.18	0.52	0.51	4.46	0.15	0.09	0.02	0.62	0.03	0.07	−	0.44	0.09	0.09	0.09	−	−	−
21・25	06/21	−	1.93	0.33	0.46	4.93	0.07	0.11	0.01	0.49	0.05	0.08	−	0.34	−	0.09	−	−	−	−
21・26	06/28	−	2.90	0.30	0.51	5.02	0.09	0.09	0.04	0.47	0.06	0.09	−	0.18	−	0.09	−	−	−	−
21・27	07/05	−	4.28	0.43	0.40	4.57	0.06	0.07	0.02	0.51	0.15	0.11	0.03	0.20	−	0.09	−	−	−	−
21・28	07/12	−	6.49	0.28	0.52	4.63	0.13	0.10	0.01	0.33	0.10	0.11	0.07	0.34	−	−	−	−	−	−
21・29	07/19	−	6.13	0.14	0.22	2.97	0.08	0.09	0.02	0.41	0.20	0.09	0.05	0.17	−	−	−	−	−	−
21・30	07/26	−	5.72	0.15	0.28	3.57	0.09	0.07	0.01	0.41	0.18	0.15	0.05	0.15	0.09	0.09	0.09	−	−	−
21・31	08/02	−	6.12	0.14	0.37	2.97	0.11	0.07	0.01	0.25	0.26	0.10	0.06	0.39	−	0.09	−	−	−	−
21・32	08/09	−	4.37	0.06	0.29	1.81	0.08	0.06	0.01	0.20	0.18	0.10	0.03	0.03	−	0.09	0.09	−	−	−
21・33	08/16	−	2.71	0.11	0.16	2.17	0.05	0.07	−	0.25	0.28	0.06	−	0.18	−	−	−	−	−	−
21・34	08/23	−	3.36	0.09	0.20	2.17	0.09	0.16	0.01	0.38	0.32	0.07	−	0.15	−	−	0.09	−	−	−
21・35	08/30	−	2.63	0.08	0.20	2.47	0.06	0.07	0.02	0.37	0.37	0.04	−	0.18	−	−	−	−	−	−
21・36	09/06	−	1.80	0.06	0.20	2.48	0.08	0.08	0.01	0.30	0.34	0.06	0.05	0.10	−	−	−	−	−	−
21・37	09/13	−	1.41	0.09	0.25	2.70	0.16	0.11	0.02	0.36	0.35	0.04	−	0.19	−	−	−	−	−	−
21・38	09/20	−	0.88	0.12	0.15	2.22	0.11	0.11	0.04	0.37	0.17	0.06	−	0.13	−	0.18	−	−	−	−
21・39	09/27	−	0.48	0.09	0.20	2.23	0.14	0.07	0.01	0.30	0.20	0.09	−	0.17	−	0.09	−	−	−	−
21・40	10/04	−	0.34	0.07	0.29	2.58	0.06	0.04	0.02	0.39	0.18	0.09	0.02	0.37	−	−	0.09	−	−	−
21・41	10/11	−	0.22	0.05	0.26	3.01	0.07	0.04	−	0.38	0.21	0.11	−	0.15	−	−	−	−	−	−
21・42	10/18	−	0.20	0.10	0.43	3.10	0.09	0.06	0.01	0.40	0.23	0.07	−	0.17	−	0.18	−	−	−	−
21・43	10/25	0.01	0.13	0.13	0.53	3.53	0.10	0.12	0.02	0.43	0.19	0.08	−	0.20	0.09	0.09	−	−	−	−
21・44	11/01	−	0.11	0.10	0.46	3.54	0.13	0.14	0.01	0.33	0.15	0.05	−	0.33	−	−	−	−	−	−
21・45	11/08	−	0.03	0.17	0.35	4.53	0.26	0.20	0.01	0.48	0.20	0.03	0.02	0.24	−	−	−	−	−	−
21・46	11/15	−	0.04	0.21	0.58	6.01	0.14	0.39	0.02	0.33	0.15	0.07	0.02	0.07	−	−	−	−	−	−
21・47	11/22	−	0.09	0.16	0.38	7.04	0.18	0.35	0.02	0.40	0.25	0.06	−	0.10	0.09	0.18	−	−	−	−
21・48	11/29	0.01	0.06	0.24	0.37	9.09	0.26	0.40	0.01	0.33	0.24	0.05	−	0.20	−	−	−	−	−	−
21・49	12/06	−	0.08	0.28	0.61	11.18	0.22	0.37	0.02	0.30	0.25	0.04	−	0.15	−	−	−	−	−	−
21・50	12/13	−	0.17	0.33	0.48	11.54	0.25	0.38	0.01	0.29	0.31	0.04	0.02	0.24	−	0.09	−	−	−	−
21・51	12/20	−	0.09	0.39	0.43	11.91	0.17	0.43	0.03	0.29	0.23	0.03	0.03	0.23	−	−	−	−	−	−
21・52	12/27	−	0.04	0.19	0.18	5.67	0.09	0.15	−	0.14	0.04	0.01	−	−	0.09	−	−	−	−	−
2021年	計	0.14	55.55	10.21	21.31	206.00	6.67	5.27	0.89	21.65	6.24	3.42	0.74	10.03	1.00	2.45	0.91	−	0.27	0.09
2020年	計	116.84	3.52	10.67	61.74	156.51	13.48	4.94	3.53	23.18	2.58	3.59	1.00	14.36	1.09	2.00	7.91	−	0.09	11.91
2021年/2020年比		0.0	15.8	1.0	0.3	1.3	0.5	1.1	0.3	0.9	2.4	1.0	0.7	0.7	0.9	1.2	0.1		3.0	0.0

※表中の定点当たり報告数は，小数第3位で四捨五入　　（－:0）

(4) 基幹定点把握対象疾患の動向

1) 細菌性髄膜炎

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 11 例であった．定点当たり報告患者総数 1.00 は前年と同水準であった．報告は散発的で，52 週のうち 9 週で 1 例～3 例の報告があり，定点当たり報告数の最大値は 0.27 であった．年齢階級別では，65 歳以上が 54.5%占めた．

2) 無菌性髄膜炎

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 27 例であった．定点当たり報告患者総数 2.45 は前年と同水準であった．報告は年間を通して断続的に観察され，52 週のうち 21 週で 1 例～3 例の報告があった．定点当たり報告数の最大値は，第 5 週（2/1～7）の 0.27 であった．年齢階級別では，0 歳が 4 例で最も多く，20 歳未満が 37.0%，

20～70 歳未満が 51.9%，70 歳以上が 11.1%であった．

3）マイコプラズマ肺炎

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 10 例であった．定点当たり報告患者総数 0.91 は前年と比べ減少した．定点当たり報告数の最大値は，第 9 週（3/1～7）の 0.18 で，年間を通して際立った報告数の増加は観察されず，報告は散発的であった．年齢階級別では 20 歳未満が 50.0%を占めた．

4）クラミジア肺炎（オウム病を除く）

第 1 週～52 週の患者の報告はなかった．報告患者数は 2018 年が 4 例，2019 年が 1 例と 2018 年以降は 5 例未満となっている．

5）感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）

第 1 週～52 週の累積報告患者数は 3 例であった．定点当たり報告患者総数 0.27 は前年と同水準で，例年のような初春から初夏にかけての流行は観察されなかった．年齢階級別では 1-4 歳が 2 例，65-69 歳が 1 例であった．

6）インフルエンザ（入院患者）

第 1 週～52 週の患者の報告は，第 12 週（3/22-28）の 70 歳以上 1 例のみであった．定点当たり報告患者総数 0.09 は前年と比べ大きく減少した．

表 4　年齢階級別報告数（インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点　週単位報告）

年齢階級	インフルエンザ	年齢階級	RSウイルス	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	年齢階級	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	年齢階級	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	インフルエンザ（入院患者）
-6カ月	-	-6カ月	679	5	1	201	10	7	-	44	3	1	-6カ月	-	1	0歳	2	4	-	-	-	-
-12カ月	1	-12カ月	1,021	104	8	1,474	25	60	14	853	59	4	-12カ月	-	-	1-4歳	-	1	-	-	2	-
1歳	1	1歳	2,615	570	167	4,860	69	341	32	1,919	283	13	1歳	5	5	5-9歳	-	2	2	-	-	-
2歳	4	2歳	2,206	363	343	4,604	54	212	22	445	266	23	2歳	2	5	10-14歳	-	1	1	-	-	-
3歳	2	3歳	1,302	223	338	3,951	67	83	10	131	181	46	3歳	1	8	15-19歳	-	2	2	-	-	-
4歳	2	4歳	641	137	405	3,306	115	45	16	50	83	83	4歳	-	9	20-24歳	1	2	-	-	-	-
5歳	3	5歳	265	89	423	2,683	105	39	15		48	97	5歳	-	7	25-29歳	-	2	-	-	-	-
6歳	-	6歳	58	44	338	2,041	122	17	7		28	74	6歳	-	4	30-34歳	-	-	1	-	-	-
7歳	1	7歳	17	18	278	1,453	113	10	8		7	52	7歳	-	3	35-39歳	-	2	-	-	-	-
8歳	1	8歳	7	10	255	1,261	104	6	5		5	48	8歳	-	4	40-44歳	1	2	-	-	-	-
9歳	2	9歳	6	13	197	1,074	86	3	1		4	37	9歳	-	4	45-49歳	-	-	3	-	-	-
10-14歳	3	10-14歳	9	25	391	2,953	173	12	8		19	62	10-14歳	2	9	50-54歳	-	3	-	-	-	-
15-19歳	3	15-19歳	-	4	49	570	9	-	2		1	4	15-19歳	1	19	55-59歳	1	1	-	-	-	-
20-29歳	2	20歳以上	7	18	195	2,323	9	3	1		5	-	20-29歳	7	80	60-64歳	-	2	-	-	-	-
30-39歳	4												30-39歳	3	68	65-69歳	3	-	-	-	1	-
40-49歳	-												40-49歳	1	67	70歳以上	3	3	1	-	-	1
50-59歳	3												50-59歳	4	52							
60-69歳	1												60-69歳	2	31							
70-79歳	-												70歳以上	1	15							
80歳以上	2																					
合計	35	合計	8,833	1,623	3,388	32,754	1,061	838	141	3,442	992	544	合計	29	391	合計	11	27	10	-	3	1

（－:0）

7）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

1 月～12 月の累積報告患者数は 246 例であった．定点当たり報告患者総数 22.36 は前年と比べ増加した．年間を通して患者報告はあり，定点当たり報告数は最小値 0.91，最大値 3.27 の範囲で推移した．最大値は前年の最大値 1.82 を上回った．年齢階級別では，70 歳以上が 177 例（男：112 例，女：65 例）で最も多く，全体の 72.0%を占めた．

8）ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

1 月～12 月の累積報告患者数は 21 例であった．定点当たり報告患者総数 1.91 は前年と比べわずかに減少した．報告は年間を通して断続的に観察され，定点当たり報告数は最小値 0.00，最大値 0.36 の範囲で推移した．最大値は前年の最大値 0.55 を下回った．年齢階級別では，60 歳以上が 14 例（男：10 例，女：4 例）で，全体の 66.7%を占めた．

9）薬剤耐性緑膿菌感染症

2021 年 1 月～12 月の累積報告患者数は 3 例であった．定点当たり報告患者総数 0.27 は前年と比べ減少した．報告は 3 月，5 月及び 6 月に各 1 例で，定点当たり報告数の最大値 0.09 は，前年の最大値を下回った．年齢階級別では，70 歳以上が 2 例（男：1 例，女：1 例），35-39 歳が 1 例（男）であった．

(5) 性感染症定点把握対象疾患の動向

1）性器クラミジア感染症

1 月～12 月の累積報告患者数は 1,637 例（男 515 例，女 1,122 例，性比 0.46）であった．定点当たり報告患者総数 27.89 は前年と同水準であった．定点当たり報告数は最小値 1.73，最大値 2.73 の範囲で推移した．報告患者は，男では 20-24 歳及び 25-29 歳が各 105 例で最も多く，20 歳から 44 歳が 80.1%を占めた．女では 20-24 歳が 395 例で最も多く，15 歳から 34 歳が 84.0%を占めた．

2）性器ヘルペスウイルス感染症

1 月～12 月の累積報告患者数は 496 例（男 112 例，女 384 例，性比 0.29）であった．定点当たり報告患者総数 8.45 は前年と同水準であった．定点当たり報告数は最小値 0.54，最大値 0.98 の範囲で推移した．報告患者は，男では 25-29 歳が 22 例で最も多く，20 歳から 49 歳が 75.9%を占めた．女では 20-24 歳と 30-34 歳の各 65 例及び 25-29 歳の 63 例が多く，20 歳から 39 歳が 62.5%を占めた．

3）尖圭コンジローマ

1 月～12 月の累積報告患者数は 250 例（男 96 例，女 154 例，性比 0.62）であった．定点当たり報告患者総数 4.26 は前年と同水準であった．定点当たり報告数は最小値 0.27，最大値 0.51 の範囲で推移した．報告患者は，男では 25-29 歳が 18 例で最も多く，20 歳から 44 歳が 66.7%を占めた．女では 20-24 歳の 41 例及び 25-29 歳の 40 例が多く，15 歳から 39 歳が 83.8%を占めた．

4）淋菌感染症

1 月～12 月の累積報告患者数は 434 例（男 320 例，女 114 例，性比 2.81）であった．定点当たり報告患者総数 7.39 は前年と同水準であった．定点当たり報告数は最小値 0.42，最大値 0.95 の範囲で推移した．報告患者は，男では 20-24 歳が 81 例で最も多く，20 歳から 49 歳が 84.7%を占めた．女では 20-24 歳が 37 例で最も多く，15 歳から 29 歳が 66.7%を占めた．

(6) 感染症法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

2021 年，埼玉県における発熱，呼吸器症状，発しん，消化器症状または神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち，医師が一般に認められている医学的知見に基づき，集中治療その他これに準ずるものが必要であり，かつ，直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したものの届出はなかった．

表 5　定点把握対象疾患の推移（基幹定点・性感染症定点　月単位報告）

月別	ﾒﾁｼﾘﾝ耐性 黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌感染症		ﾍﾟﾆｼﾘﾝ耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器ｸﾗﾐｼﾞｱ感染症		性器ﾍﾙﾍﾟｽ ｳｲﾙｽ感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数	報告患者数	定点当たり報告数
1月	10	0.91	−	−	−	−	130	2.24	43	0.74	19	0.33	39	0.67
2月	18	1.64	4	0.36	−	−	121	2.05	37	0.63	16	0.27	33	0.56
3月	14	1.27	3	0.27	1	0.09	155	2.72	51	0.89	18	0.32	28	0.49
4月	17	1.55	4	0.36	−	−	152	2.58	38	0.64	28	0.47	35	0.59
5月	17	1.55	2	0.18	1	0.09	147	2.49	39	0.66	23	0.39	34	0.58
6月	13	1.18	−	−	1	0.09	161	2.73	47	0.80	17	0.29	45	0.76
7月	10	0.91	4	0.36	−	−	130	2.20	45	0.76	16	0.27	56	0.95
8月	21	1.91	−	−	−	−	127	2.15	35	0.59	21	0.36	25	0.42
9月	36	3.27	−	−	−	−	134	2.27	35	0.59	20	0.34	31	0.53
10月	36	3.27	1	0.09	−	−	102	1.73	32	0.54	30	0.51	43	0.73
11月	31	2.82	1	0.09	−	−	128	2.17	58	0.98	20	0.34	31	0.53
12月	23	2.09	2	0.18	−	−	150	2.54	36	0.61	22	0.37	34	0.58
2021年　計	246	22.36	21	1.91	3	0.27	1,637	27.89	496	8.45	250	4.26	434	7.39
2020年　計	160	14.55	28	2.55	6	0.55	1,596	27.19	494	8.42	249	4.24	380	6.47
2021年/2020年比	1.5	1.5	0.8	0.8	0.5	0.5	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.1	1.1

（－:0）

表 6　性年齢階級別報告数（基幹定点・性感染症定点　月単位報告）

年齢階級	ﾒﾁｼﾘﾝ耐性 黄色ﾌﾞﾄﾞｳ球菌感染症		ﾍﾟﾆｼﾘﾝ耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症		性器ｸﾗﾐｼﾞｱ感染症		性器ﾍﾙﾍﾟｽ ｳｲﾙｽ感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	2	4	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
1- 4歳	3	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
5- 9歳	−	1	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
10-14歳	1	1	−	−	−	−	−	3	−	2	−	1	−	1
15-19歳	1	−	−	−	−	−	19	121	1	19	1	12	8	18
20-24歳	1	3	−	−	−	−	105	395	12	65	10	41	81	37
25-29歳	−	−	1	−	−	−	105	283	22	63	18	40	55	21
30-34歳	1	2	−	1	−	−	77	144	13	65	12	21	37	12
35-39歳	2	−	1	−	1	−	68	95	12	47	13	15	40	10
40-44歳	1	1	−	−	−	−	62	34	12	33	11	5	32	8
45-49歳	1	3	−	−	−	−	38	25	14	25	8	7	26	2
50-54歳	5	4	−	1	−	−	19	14	8	20	8	5	15	1
55-59歳	9	5	−	−	−	−	15	7	11	11	6	2	15	2
60-64歳	5	1	1	1	−	−	5	−	1	7	4	1	6	−
65-69歳	8	3	2	−	−	−	2	−	4	7	1	−	4	−
70歳～	112	65	7	3	1	1	−	1	2	20	4	4	1	2
合計	152	94	15	6	2	1	515	1,122	112	384	96	154	320	114
男女比	1.62	1.00	2.50	1.00	2.00	1.00	0.46	1.00	0.29	1.00	0.62	1.00	2.81	1.00

（－:0）

まとめ

2021 年の感染症発生動向調査に基づく患者届出について，各疾患別にその動向をまとめた．

新型インフルエンザ等感染症の新型コロナウイルス感染症は 101,396 例の届出があり，前年より大幅に増加した．

全数把握対象疾患の二類感染症では，結核が 833 例の届出があった．結核患者数は 590 例で，緩やかな減少傾向にある．

三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症は前年に比べ増加したが，6 月～9 月の届出数は過去 5 年で最も少なかった．また，血清型 O157 の届出数は過去 5 年で最も少なかった．

四類感染症は，E 型肝炎，A 型肝炎，つつが虫病，マラリア，レジオネラ症，レプトスピラ症の計 6 疾患の届出があり，E 型肝炎は 2019 年以降増加傾向にある．

五類感染症の全数把握対象疾患は，アメーバ赤痢，ウイルス性肝炎（E 型・A 型を除く），カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症，急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く），急性脳炎，クロイツフェルト・ヤコブ病，劇症型溶血性レンサ球菌感染症，後天性免疫不全症候群，ジアルジア症，侵襲性インフルエンザ菌感染症，侵襲性肺炎球菌感染症，水痘（入院例），梅毒，播種性クリプトコックス症，破傷風，百日咳，風しん，麻しんの計 18 疾患の届出があった．梅毒は 287 例の届出があり，過去 5 年で最大となった．省令の改正により 2018 年に全数把握対象疾患に移行された百日咳の届出数は 2 年連続で減少した．

定点把握対象疾患の定点当たり報告患者総数が前年より増加した疾患は，RS ウイルス感染症，感染性胃腸炎，ヘルパンギーナ，メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症であった．特に RS ウイルス感染症の定点当たり報告患者総数及び定点当たり報告数の最大値は感染症法に基づく調査が開始された 2003 年以来，最大であった．

文献

1) 厚生労働省：感染症法における感染症の分類，https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000203410.pdf（参照 2022 年 7 月 19 日）

2) 厚生労働省：オープンデータ，https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html（参照 2022 年 7 月 15 日）